

2023年5月12日

各位

会社名 株式会社ガーラ
 代表者名 代表取締役グループ CEO 菊川 暁
 (コード：4777、スタンダード市場)
 問合せ先 取締役 CFO 岡本 到
 (TEL. 03-6822-6669)

2023年3月期連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異、並びに連結決算における特別損失(減損損失)、個別決算における営業外収益(為替差益、貸倒引当金戻入額)、特別利益(新株予約権戻入益、関係会社事業損失引当金戻入額)の発生に関するお知らせ

当社は、2023年3月期(2022年4月1日から2023年3月31日)連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異、並びに連結決算における特別損失(減損損失)、個別決算における営業外収益(為替差益、貸倒引当金戻入額)、特別利益(新株予約権戻入益、関係会社事業損失引当金戻入額)の発生に関して下記のとおりお知らせいたします。なお、当社は2023年3月期の業績予想は公表しておりません。

記

1. 2023年3月期連結業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A) 2022年3月期	600	△297	△220	△186	△9.77
当期実績(B) 2023年3月期	3,207	437	400	320	13.35
増減額(B-A)	2,606	735	621	506	—
増減率(%)	433.8%	—	—	—	—

2. 2023年3月期個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A) 2022年3月期	72	△172	△158	△241	△12.66
当期実績(B) 2023年3月期	67	51	69	356	14.85
増減額(B-A)	△5	223	227	597	—
増減率(%)	△7.0%	—	—	—	—

3. 差異が生じた理由

(1) 連結業績

2023年3月期の連結業績は、連結売上高3,207百万円（前期比433.8%増）となり、大幅な増収となりました。これは、主にHTML5ゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」をリリースしたことにより売上高が前期と比較して増加したことによります。

営業利益及び経常利益につきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加があった他、販売費及び一般管理費が前期と比較して主に「Flyff Universe（フリフユニバース）」に係るマーケティング活動費用が増加したことによる広告宣伝費の増加及びソフトウェア償却費の増加等により増加となり、また、営業外収益として、主に為替差益8百万円を計上したこと、営業外費用として、主に暗号資産売却損6百万円、暗号資産評価損58百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、主に収益性の見込めないソフトウェアについて減損損失138百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

これらの結果、営業利益437百万円（前期は営業損失297百万円）、経常利益400百万円（前期は経常損失220百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益320百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失186百万円）となりました。

(2) 個別業績

2023年3月期の個別業績は、売上高67百万円（前期比7.0%減）となり、減収となりました。これは、主にクラウド関連事業において契約形態の変更により売上高が前期と比較して減少したことによります。

また、営業利益及び経常利益につきましては、主に連結子会社Gala Lab Corp.の債務超過が解消になったことにより同社の売掛債権に係る貸倒引当金を全額取崩したことに伴う販売費及び一般管理費の減少、また、営業外収益として、主に連結子会社(株)ガーラジャパンに対する貸付金に係る貸倒引当金戻入額10百万円の計上、為替差益3百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

当期純利益につきましては、主に連結子会社Gala Lab Corp.の債務超過が解消になったことに伴い関係会社事業損失引当金戻入額286百万円を特別利益として計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

なお、上記のうち、貸倒引当金戻入額及び関係会社事業損失引当金繰入額は、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

これらの結果、営業利益51百万円（前期は営業損失172百万円）、経常利益69百万円（前期は経常損失158百万円）、当期純利益356百万円（前期は当期純損失241百万円）となりました。

4. 連結決算における特別損失（減損損失）の発生について

(1) 特別損失（減損損失）

当連結累計期間において、一部の収益性の見込めないソフトウェアについて減損損失138百万円を計上するものであります。

5. 個別決算における営業外収益（為替差益、貸倒引当金戻入額）、特別利益（新株予約権戻入益、関係会社事業損失引当金戻入額）の発生について

(1) 営業外収益（為替差益）

当事業年度において昨今の為替相場の変動により、為替差益3百万円を計上するものであります。

(2) 営業外収益（貸倒引当金戻入額）

連結子会社に対する貸付金に関して貸倒引当金を計上しておりましたが、貸付金の回収を受けたことに伴い、当事業年度において貸倒引当金戻入額10百万円を計上するものであります。

(3) 特別利益（新株予約権戻入益）

当事業年度において失効となった新株予約権について新株予約権戻入益2百万円を計上するものであります。

(4) 特別利益（関係会社事業損失引当金戻入額）

一部の関係会社に対する出資金及び貸付金等債権を超えて当社が負担することとなる損失見込額について関係会社事業損失引当金を計上していましたが、当該関係会社の債務超過が解消されたことから当事業年度において関係会社事業損失引当金について全額戻入を行い、関係会社事業損失引当金戻入額 286 百万円を計上するものであります。

6. 2024 年 3 月期の業績見込みについて

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が非常に難しく、HTML5 ゲーム事業における開発が予定どおりに進まない可能性や課金収入の予測も極めて困難であります。さらに、新規事業であるクラウド関連事業、ツリーハウスリゾート事業及び Meta Campus 事業については、当該事業を取り巻く環境の変化等により損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただいております。

以 上